今週の為替相場見通し（2018年10月15日）

総括表		先週の値動き				今週の予想レンジ
		注	レンジ		終値	
米ドル	（円）		111.83	～ 113.94	112.21	110.50 ～ 113.00
ユーロ	（ドル）		1.1433	～ 1.1611	1.1559	1.1300 ～ 1.1700
（1ユーロ=）	（円）		129.22	～ 131.20	129.69	127.00 ～ 131.00
英ポンド	（ドル）		1.3029	～ 1.3259	1.3152	1.3100 ～ 1.3230
（1英ポンド=）	（円）	*	147.17	～ 149.52	147.60	146.00 ～ 148.50
豪ドル	（ドル）		0.7041	～ 0.7140	0.7117	0.7000 ～ 0.7150
（1豪ドル=）	（円）	*	79.06	～ 80.60	79.81	79.00 ～ 81.00

（データ）先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1．米ドル

為替営業第一チーム　森田大貴

⑴ 今週の予想レンジ：　110.50 ～ 113.00 円

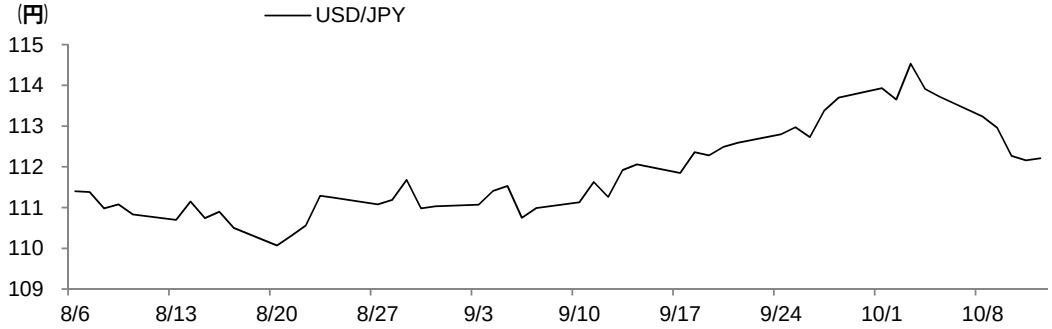
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、二度にわたり急落する展開となった。週初8日に113円台後半でオープンしたドル/円は週高値となる113.94円をつけたが、日米が休場のため市場参加者が少ない中、独8月鉱工業生産指数が前月比▲0.3%と予想に反して減少するとリスク回避ムードが拡がり112 円台後半まで下落。9日は中国景気の先行きに対する不安やイタリア財政に対する懸念、さらに米10年債利回りの低下などを背景に113円台前半で上値重く推移。10日はブレグジットに関して英国がEUの関税同盟にとどまる案が協議される見通しとの報を受け、合意なき離脱が回避されるとの期待から円売りが強まり113円台前半まで一時上昇。しかし、ムニューシン米財務長官が「15 日に発表する米為替報告書で中国を為替操作国に指定する可能性がある」と発言したことや米株の弱い値動きを受けて113円を下抜け。その後、NYダウ平均株価が前日比▲831ドルと2月以来となる大幅安になる中で112円台前半まで下げ幅を拡大。11日は米9月消費者物価指数（CPI）が予想を下回ったことや米新規失業保険申請件数が予想を上回る結果になったこと、および前日に続いてNY ダウ平均が大幅続落する展開にドル/円は週安値となる111.83円を示現。翌12日はアジア株が総じて反発する動きを受け、週末を前にリスクオフの巻き戻しの動きとなり112.50円まで上昇したが、米株が序盤の上げ幅を削る動きとなったことから一時111.88円まで反落。その後は、米株が引けにかけて再度上昇する動きとなり112.21円で越週した。

今週のドル/円相場は引き続き上値の重い展開を予想。足元のドル/円は、先週のパウエルFRB議長の発言以降の米金利上昇を受けた米株の下落を背景にリスクオフの動きとなり、10月3日の高値114.55円から2円超下落する展開となった。週末に向けてはグローバルに株価が反発、ドル/円についても下げ止まったものの、11月に米中間選挙を控えることもあり、引き続きリスクオン環境とはなりづらい状況。また、ムニューシン財務長官が13日、為替条項を日本にも求める意向を示したことも円高材料。現状レベルでは本邦実需勢の旺盛な押し目買い意欲が確認されており受給は良好であるものの、市場の円ショートポジションが積み上がっていたこと、テクニカルにも一目均衡表の基準線を下回って越週しており、まだ底打ち感が出ていないことに鑑みれば、ドル/円は引き続き上値重く推移しよう。来週は、17日（水）にFOMC議事要旨が公表される他、米企業決算が本格化する。目下市場の焦点は米株の動向であり、株価が落ち着きを取り戻すかに注目したい。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/8～10/12）の値動き：　安値 111.83 円　高値 113.94 円　終値 112.21 円



（資料）ブルームバーグ

2．ユーロ

為替営業第二チーム　森谷友一

⑴ 今週の予想レンジ：　1.1300 ～ 1.1700　　127.00 ～ 131.00 **円**

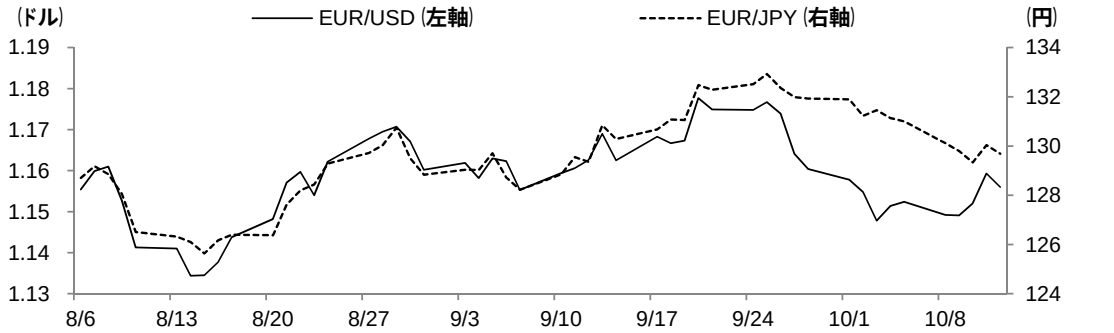
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ相場は週後半に上昇する展開となった。週初8日に対ドルで1.15台前半、対円では130円台後半でオープン。予算案を巡るイタリアとEU の対立が懸念される中、ユーロ圏10月センティックス投資家信頼感指数が市場予想を下回ると対ドルでは1.14台半ばまで下落。対円ではアジア時間に一時週高値となる131.20円まで上昇するも、株安を背景にリスク回避の動きが強まると対円では129円台半ばまで下落した。9日はEU 高官がイタリア政府の財政見通しはEU が求める枠組みから大きく逸脱していると指摘したことを受けて対ドルで週安値となる1.1433をつけたが、米10年債利回りが低下する中でユーロ買い戻しの動きが強まり1.14台後半まで反発。10日はブレグジットを巡る協議でバルニエEU 首席交渉官が「協定は80～85%完成している」と発言したことが好感され1.15台半ばまで続伸したが、米株の急落を受けたユーロ/円の売りを受けて対ドルでも1.15台前半まで連れ安となった。11日は前日のリスクオフを引き継ぐ中、対円では一時週安値となる129.22円まで水準を下げる局面もあったが、米9月CPIの弱い結果を受けたドル売りにユーロは買い戻され対ドルでは1.1600まで上昇。12日は対ドルで一時週高値となる1.1611まで上昇したものの、その後は翌週のEUサミットへの警戒感やエッティンガー欧州委員のユーロ高牽制発言を受け伸び悩み、対ドルで1.15台半ば、対円では129円台後半で越週した。

今週のユーロ相場は上値の重い推移を予想する。最近のユーロ相場はイタリア財政に関するニュースヘッドラインに振らされる局面が度々見られているが、今週15日(月)には2019年度予算案のEUに対する提出期限を迎える。その後、EUが予算案の内容を評価することとなるが、これまでEUはイタリア政府の計画に対し批判的なスタンスを示しており、財政赤字の幅を巡る意見の対立が早期に解消に向かう可能性は低そう。予算案提出を終えても、引き続き同問題への警戒感はユーロ相場の重石となるだろう。また、Brexitを巡っては18日にEU首脳会議が予定されている。一部では合意が近いとの報道も出てはいるものの、結果が確認されるまでは先行き不透明感は拭いきれない状況であることには変わりは無いだろう。また、ECBの金融政策については先週11日に9月理事会の議事要旨が公表されたが、成長率見通しの下方修正が続いていることに対する警戒感が浮上していることが示される内容となっており、ユーロ買いにつながるようなものとは言えず。引き続きECBへの金融政策への期待感を背景としたユーロ買いは盛り上がりづらい状況と言えそうだ。重要イベントが相次ぐだけに、結果次第では上下両方向に相応の値幅を伴う動きを警戒したいが、上値の重い推移をメインシナリオとして予想する。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/8～10/12）の値動き：　（対ドル）安値 1.1433　高値 1.1611　終値 1.1559
（対円）安値 129.22　高値 131.20　終値 129.69



（資料）ブルームバーグ

3．英ポンド

欧州資金部　本多秀俊

⑴ 今週の予想レンジ：　1.3100　～ 1.3230　　146.00　～ 148.50　**円**

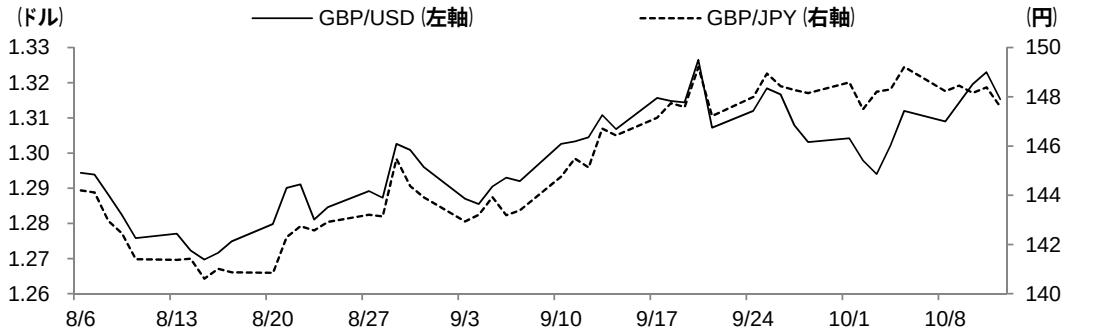
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドル、対ユーロで、予想外に上昇。対円では、週初の急落後、全般的な円高基調の中、方向感の定まらない上下動を繰り返した。この間のポンド上昇の主因は、英のEU離脱交渉に対する楽観の広がりにあった。「アイルランド外相が『離脱交渉の90%』は合意したと発言（7日）」「15日にも合意が成立する見通し（10日）」「EU側のバルニエ首席交渉官が『合意は手の届くところにある』と述べた（10日）」といった報が次々に注目を集め、合意に対する期待感を高めた。週明け8日の対円でのポンド急落の背景としては、ユーロ円の急落に連れたという側面と、リスク回避の円高という側面の両面が考えられた。値動きから判断して、同日発表された独8月鉱工業生産の予想外の下振れがきっかけを与えたと考えるのは妥当と言えただろう。一方で、日米市場の休日で、動意の低下が予想された中、（中国人民銀による7日の預金準備率引き下げ発表にもかかわらず）中国株が下落したことや、引き続き予算を巡る伊政府とEU（欧州委員会）の確執が警戒されたことなど、様々な要因が殊更リスクに対する警戒感を高めたようにも見えた。ただ、10日、11日には、米株主導で他の主要国株価も軒並み急落、円全面高を促した。株式市場全般は、12日には底難い値動きを見せたが、並行してポンド円は続落。週引けに掛けてのポンド軟調をけん引した。

今週の英ポンド相場は、軟調を予想。英のEU離脱交渉に関し、先週俄かに高まった楽観に違和感が強いのがその理由。上記例で言えば、まず、「離脱交渉の90%」の意味するところが怪しい。おそらくは、例えば、合意すべき項目が100項目あって、その90項目に合意したという意味と思われるが、それを90%の合意と表現するのは誤解を招くだろう。最後に残った10項目にこそ合意を妨げる難しい問題（英離脱交渉で言えば北アイルランド/アイルランド国境問題のような）が残っているはずだからだ。10日に報じられたバルニエ首席交渉官の発言も、「障害は残るが」との警告が同時に発せられていた。この間の各種報道によれば、①（将来的には）北アイルランドを共通規制区域（物の単一市場）に残し、関税徴収は（現行付加価値税徴収制度同様）申告制とすることで国境問題を解決　②時限的な経過措置として英全土を単一市場・関税同盟に残すといった歩み寄りが見られたが、事実であれば、確かに交渉の進展とは言えるだろう。ただし、仮にEUと英政府とが「合意」に達したとしても、それが離脱交渉の終着点ではない。①は英連立政権の一角を支える民主統一党（DUP）が、この間も、「英本土と北アイルランドとを分断するもの」として、繰り返し「支持しない」と強調していたし、②は、40-50人はいると見られる与党保守党内の強硬離脱派議員達がすんなり受け容れるとは考え難い。つまり、仮に英政府とEUとが合意しても、それを英議会が拒否、合意は宙に浮いて、場合によっては首相不信任案から解散総選挙という道筋まで見えてくる可能性さえある。まずは18日（木）からのEU閣僚理事会（EUサミット）の動向を見極める必要があろうが、徒な楽観が広がった分、失望からポンドが売られる可能性の方が警戒される。英経済指標は、16日（火）に英6～8月平均賃金、17日（水）に英9月CPI、18日（木）に英9月小売売上高など、英中銀金融政策にも影響しかねない主要経済指標の発表が並ぶが、EU閣僚理事会を前に、ポンドが材料視する可能性は高くないと見込む。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/8～10/12）の値動き：　（対ドル）安値 1.3029　高値 1.3259　終値 1.3152
（対円）安値 147.17　高値 149.52　終値 147.60



（資料）ブルームバーグ

4．豪ドル

為替営業第二チーム　坂本真史

⑴ 今週の予想レンジ：　0.7000　～ 0.7150　　79.00　～　81.00　**円**

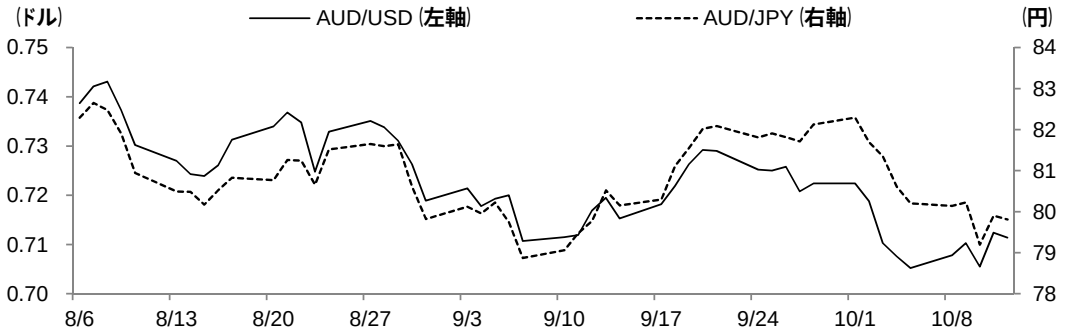
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は対ドルで小幅上昇、対円で横ばい推移した。まず対ドルでは、週初8日は0.70台半ばでオープン。前週末に世界的に株安となりリスクセンチメントが後退する中、週安値0.7041をつけた後、上値重く推移。翌9日、上海株が下げ渋ったことでリスクセンチメントの後退が緩んだ他、トランプ米大統領がFRBの利上げペースについて「急ぐ必要がない」と言及したことがドル売り材料となり、0.71ちょうど近辺まで上昇。週央10日、休暇明けの中国で鉄鉱石等の需要が高まるとの見方もあってコモディティ価格が上昇すると、0.71台前半まで値を伸ばした。しかし、ムニューシン米財務長官が15日に発表を予定する為替報告書で中国を為替操作国に指定する可能性があると言及したことや、米金利上昇を警戒してか株式市場が大きく下落する展開に、急速にリスクセンチメントが後退し、0.70台半ばまで下落。翌11日、米債利回りが低下したことに加え、発表された米9月消費者物価指数（CPI）が予想を下回ったことがドル売り材料となり、0.71台を回復。週末12日は週高値0.7140をつけるも更なる上値追いとはならず、0.71台前半で越週した。次に対円では、週初8日に80円台前半でオープン。基本的には週を通して80.00円を挟んだレンジ推移。週央10日にはアジア時間に豪ドルが対ドルで上昇した局面で週高値80.60円をつけるも、その後の世界同時株安でリスクセンチメントが後退したことでニューヨーク時間には週安値79.06円をつけた。その後は79円台半ばから80円台前半でレンジ推移し、結局79円台後半で越週した。

今週の豪ドルは対ドルでの軟調推移を予想。まずは、15日（月）に公表が予定されている米財務省による半期に一度の為替報告書で、中国がどのように記載されるかが注目材料だ。為替操作国に認定するまでもなく、米中貿易戦争は関税障壁ですでに始まっているものの、米政府の立場を確認する上で意義がある。仮に為替操作国に認定するに至れば、リスクセンチメントが良化するとは考え難い。他方、認定されなかったとしても、米中貿易戦争が休戦する訳ではなく、来月にも開催が予想されている米中通商交渉への注目度が高まりはするものの、今週の豪ドル相場の大きな支援材料にはなり難いと考える。次に、豪州では18日（木）に豪9月雇用統計の発表が予定されている。前月に続き、良好な雇用環境を確認できる結果となったとすれば豪ドルをサポートする可能性はある。但し、伊政局や英国によるEU離脱交渉、米中間選挙といった政治要因が多く残っている環境で、仮に良好な豪雇用統計であったとしても、この材料だけで豪ドル相場が上昇を続けるとは考え難い。その他には16日（火）にRBA議事要旨の発表、17日（水）にデベルRBA副総裁の講演が予定されている。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/8～10/12）の値動き：　（対ドル）安値　0.7041　高値　0.7140　終値　0.7117
（対円）安値　79.06　高値　80.60　終値　79.81



（資料）ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。